

# 伝えたい、伝統芸能の心

高森町伝統芸能連絡協議会会長 本田 研一

尾下へ近づくと、左上手に多々野原公園が見えてきます。尾下菅原神社で禊を終えた獅子舞一行は、太鼓の音を背にして、披露の場、多々野原へ向かいます。神やどる地にて、何百年も繰り返されてきた祭事。幸多かれと祈ります。

おそらく高森町で一番高い所に位置するでしょうこの地は、阿蘇の五岳が横たわり、祖母・久住の山々が一望できます。かつて周囲が原野であった頃は、もつと壮大な眺めであったろうと思われませんが、今は植林された杉がそれらを隠そうとしています。

お母さん方は重箱一杯にご馳走をこしらえ、知人に声を掛けられては宴席の場を広げられています。獅子舞に参加している子供達の白装束が、祭りの艶やかさに色を添えています。

もう二十数年前になりますが、尾下菅原神社獅子舞保存会は、アメリカ・モンタナ州での公演を成功させており



▲道標甲斐有雄翁

ます。

秋の大祭で「尾下獅子舞」に出演される人達は、広範囲な地区に住んでいます。西方に百狩から東に下山、南西方向に片山、そして北方に牧戸と、この祭りは広範な人々の集いの場として、発展してきました。距離的にならざるや、往時尾下村として機能していた頃

は、各種商店もありました。そしてこの高原地帯で最も高い所に位置するのが、ここ尾下でありました。ここには、大津町でも見る事ができる道標を、自らの手で立ててこられた甲斐有雄翁の墓地があります。また大谷ダムの入口にもなっています。今は大分県荻町の標識があり入れなく鍵が掛けられています。以前ほど魚もいなくなった様で、釣りを目的として訪れる人もいなくなつたのでしょうか。

多々野原を過ぎ尾下小学校跡を左手に見て進むと、杉林が道に被さるよう狭く感じます。初めて訪れた人は、ここらが終点かと思われま

陽を遮る木々の木立は、時として素晴らしき出会いを見せてくれます。長方形に削られた石塔からは、今でも告げる「道しるべ」を見出すことが出来ます。「左久保村右下山」太字で書かれた素朴ですこし濡れているかのような書体は、情感に染み入るものがあります。

そこを左に折れ、久保村へ進むと急な坂道が一キ口は続きます。平成十年代頃までは、人も住んでいたようですが、今は居住者ゼロの地域です。

窪地奥に佇む、数件の廃墟。農地は少なく林業が主だったのでらうと、思われます。

道はまさに行き止まりで、来た道を戻り下山へ向かいます。

道しるべがあった位置に戻り、そこを左折すると視界が開けてきます。とうてい離合などできそうに無いと思つていたら、一台の定期バスが私を通るのを待っていてくれました。後日調べたら週に二日一日三回、高森のターミナルを発着しているとの事でした。今度はこのバスで来てみたい、そしてら乗客増に繋がるし、広き高森を理解できると思いました。

下山への道は下り坂になり、尾下より百メートルは降りてきているような気がします。

此処も久保と同じく、道路は行き止まりです。しかしそこから鎖を使い降りていくと、大分県との県境に位置する白糸の滝に辿りつきます。豪快なあの水量。私達の住むこの高森からの水が流れ出ているのです。

見える沢山のビニールハウス、出荷をまつ花たちがまつています。